



## 司書のいる学校図書館の風景

学校図書館には子どもたちが集います。本を読み、学習をし、ほっと一息つきに。そんな学校図書館の風景を学校司書が伝えてくれました。

今回は、高岡市の学校図書館司書からの便りです。

### 学校図書館には学校司書が絶対に必要！

最近の生徒達はなんと忙しい事でしょう！ 4月のオリエンテーションから始まり5月修学旅行・写生大会・6月～7月部活動の試合、発表・2年生は「14歳の挑戦」・8月運動会練習・9月運動会・10月学習発表会（学校祭）・11月合唱コンクール・・・大きな行事だけでも以上のごとくです。生徒達が忙しいということは勿論、その指導にあられる先生方は毎日がお忙しく大変な思いをいらっしやるということなのです。

学校図書館司書の役割は、ゆとりを持った良書選択・購入・新着図書や先輩方などからの寄贈書をNDCに準じ配架・レファレンス（自校に資料図書がない場合、他校・公立図書館へ借り入れ依頼）・データ入力・蔵書点検・そして子供たちが気持ちよく使える環境作り・貸出後の片付け等等・・・、主だった実務的な事だけでもこれだけあります。ましてやお忙しい先生方の図書館担当は、どんなにお力のある先生であっても精神的・肉体的・時間的に現実とても無理な事と思います。

また学校図書館へは、クラスで孤立しなかなか授業に出られず苦しんでいる子が図書館を訪れ、クラス内での自分の立場・家庭・家族の事を言葉に出したり、受験を控えた3年生が自分の精神状態・悩みを話していったり、また別の子は『先生！なんで昨日図書室休んだがけ？俺が卒業するまで休んだらダメやろ』と、嬉しく(?)なるような言葉をくれたりと（本当はこの子も心寂しいのでしょう）、心揺れる子供たちが出入りし、他の大人には見せないかもしれない顔も見せていきます。勿論、私たち司書は子ども達の悩みを聞くだけですが、（深刻な状況の場合、担任の先生にそっと報告はします）それでも少しはストレス解消に役立っているようです。

私は将来を担う子ども育成に「良書に出会い触れる事」「読む事」は、必要不可欠なものと思っています。そして大切な子ども達に良い本との出会いのチャンスを作るとともに、大切な図書館に学校司書は絶対に絶対に必要！です。子ども達と触れ合い、楽しさやいっぱいのパワーをもらい、今、私は学校司書として働ける事に喜びを感じています。これからも子ども達の読書量が、より増えるよう図書選択、環境作りに頑張っていきたいと思います。

秋田犬チビ

### 常時利用可能な図書室に

学校司書という職業がようやく認知されてきましたが、現在もなお非常勤で兼務もありという状況のため子どもが学校にいる間に司書がいないう時間が多いので、常時図書室の活用（空間の利用ではなく）ができない状況にあります。そのことが学校現場に、学校司書は従来の図書館担当教諭の業務を代行する者という認識を与え、学校司書の本来の業務への理解を妨げ、図書の棄却などの作業に苦闘する状況を招いています。

図書の棄却は、学校司書のいない図書室では行われてこなかった業務だからだろうと推測します。学校司書が配置になってようやく、学校の蔵書の実態を把握できるようになり、棄却も可能になり、使える図書室への整備が始まったのではないのでしょうか。

蔵書率が百パーセントを達成していないのに、本を棄却するのかという叱責や費用対効果が低いとの評価にもめげず、手荒れと腰痛を友として、子どもの「すすめられた本おもしろかった。今度なに読めばいい？」の言葉に支えられて、今日も一人図書室での作業を続けています。

(はらー・ぽったー)

## 生徒たちとともに

昼休みの図書室開放の時間になると、給食を終えて職員室から戻る私を競争のように図書室前へ急ぐ生徒たちが追い抜いていきます。入り口の鍵を開けるのも待ちきれず図書室に入ると、ホッとしたように「あ～この部屋落ち着くわ～！」「この匂い好き～！」の声。（空気清浄機も芳香剤も置いていませんが、公共の場の空気なのか、本の匂いなのか？匂いの正体は不明ですがよく聞かれる言葉です。）

くつろいだ様子で本の返却・貸出・閲覧と各々が多忙な中学校生活の中のたった20分間を満喫しているのがわかり、その時間を共有できることにこの仕事のやりがいを感じるひとときです。

中学生くらいになると、お互いに読んだ本の情報を交換していてもなかなか鋭い意見が聞かれ、中年オバちゃん司書は耳をダンボにしてさりげなく情報収集（笑）。ウザがられない程度にその会話に介入し、次に入れる本の参考にしています。

中学生は本を読まないわけではなく、読みたい本は買ってでも読むし、読みたい本や話題の本が揃っていれば自然に図書室へ足が向くのではないかと、先生方とも相談しながら書店で直接本を見て選書したり、リクエストボックスを設置したりしています。

「何か面白い本ない？」

「先生のオススメの本は？」

そんな問いかけにスツとお望みの一冊を差し出すことができ、満足してもらえることも。

生徒の好みも色々なので、まだまだ百発百中とはいきませんが、「先生のオススメははずれがないね！」などと言われたら、お世辞だろうがお上手だろうが、心の中でガッツポーズ！この一瞬のために明日からもがんばろうという元気をもらっています。

「ダンボというよりティモシー」

## 卒業 . . . . .

この時期になると3年生の貸し出しがグッと減ってきます。毎日のように1冊2冊と借りていた人達でも、受験が目前に迫る今「しばらく我慢します」と宣言して、手に取った本を書架に戻していきます。その一方には、大丈夫かい?!と心配になるほどガンガン読み続ける人もいます。

毎年繰り返されるそんな風景の中、みんな卒業していきます。卒業する事、この図書室に来られなくなる事を寂しがってくれて、じんわりと嬉しいけれど、本当に寂しいのは私たち司書のほうですよ。楽しんでくれる図書室で良かったと思う反面、また置いてけぼりだなあと思うのです。卒業していく人たちと良い本の出会いを祈りつつ、彼らとの残りの日々が楽しい思い出になるように図書室を支えていければいいな . . . . .  
L1号

## 「明日また探しにおいで」と言える嬉しさ

みなさん「ツイッター」はご存知でしょうか？携帯やパソコンで、気持ちや思いをつぶやくとフォローしている人から返事がある、とういうものです。私の勤務する図書室でも時々つぶやきが聞こえてきます。

図書カウンターにいと「あ～早く一週間後になってほしい」、気の早い子は「早く一ヶ月経ってほしいな～」とつぶやきながら本を見せに来ます。私が「なにか楽しみなことあるが？」と聞くと、子ども達の答えはみな同じ、「誕生日!!」と返ってきます。そんな時はその子の名前と誕生日を覚え、当日顔を見かけたら「おめでとう」と声をかけるようにしています。

今の勤務校（専任）になって3年目、子ども達の名前と顔が一致するようになってきました。毎日同じ図書室にいられることで、調べ学習の手助けがスムーズにでき、子ども達ともたくさん話ができるようになりました。そしてなにより「明日また探しにおいで」と言えることが、とても嬉しいのです。

子ども達をつぶやきに耳を傾け、子ども達の心に少しでも寄り添いながら仕事をしていきたいです。今では

特別感も無くなってしまった自分の誕生日も、子ども達のように新しい一年を思い描き、また自分を見つめなおす日にしたいと思います。

最後に、失敗談をひとつ。

「今日、ぼくの誕生日なが」と教えてくれた子に、「おめでとう、いくつになったが」と聞いてしまいました。その子は「つ じゃない、7さい!!」と答えました。そうだよ、一年生だもんね、7つじゃないよね、7さいだよ。それからは、「おめでとう、なんさいになったが」と聞くようにしています。

T・Y

事務局より



「高岡市全事業総点検プロジェクト」に「学校司書の配置見直し」が提案されました。

平成22年9月に「高岡市全事業点検プロジェクト」への意見募集がありました。そのプロジェクトの項目に「学校図書館司書配置事業」があげられ、検証結果として「費用対効果の観点から配置基準を見直す必要がある。配置日数の縮減、雇用単価の減額等。」と判定されました。まだ2校兼務で勤務する方がいる状況にもかかわらず、さらに条件が悪くなる方向への見直しなどやめていただきたいと反対意見を出しました。またこのような場合は、地元の方の声がもっとも有効と考え、高岡市内の会員や関心を寄せてくださる学校関係者の方に、経緯をお知らせして意見提出をお願いしました。

国会で関心をよんだ「仕分け作業」は、各自治体でも積極的に行われているようですが、まだまだ整備が十分ではない学校司書配置がその項目にあがってしまうのはとても不思議です。良い方向にこそ見直していただきたいものです。

## 学習会参加報告

# 「学校図書館支援と活用」

講師 塩谷京子先生（関西大学初等部教諭・初等部・中等部・高等部学校図書館教育主任）

夏休みの一日、砺波市立図書館主催の講演会とワークショップに参加させていただきました。参加者は教諭、司書教諭、学校図書館司書、公共図書館司書など学校図書館にかかわる色々な立場の方々でした。1校3名で参加される学校もあり、塩谷先生の豊かな実績と知名度の高さゆえと予想されますが、参加者の「教育活動を支える学校図書館を」との熱い思いもひしひしと感じられる、盛況な講演会でした。

## 午前中の講演は

- ・言葉には「論理のことば」「感性のことば」があり、人に伝えるためのルールがある。

(例) 同じ「夏」ということばでも

一般的な事実をもとに	夏	自分のイメージをもとに
論理のことば		感性のことば

- ・国語科では両方使えるように学ぶ。
- ・「読解力と読書力」小学生は耳から入る力が大きい。
- ・5年生でも6年生でも読み聞かせをして、より良い本に出あわせてあげると良い。
- ・読み聞かせは読書の「言葉のシャワー」といってもよい。

- ・調べ学習は→学力向上・**授業**で、子どもにどんな力がつけられるのか→ねらい「調べて、まとめて、

伝える」このプロセスを学ぶ

★ 情報活用スキルを活用

百科事典の引き方、データ集の使い方、インタビューの仕方、レポートの書き方、

プレゼンテーションの仕方を、勤務校の授業で低学年より習得していく姿を紹介された。

☆百科事典を引きこなそう

何でものっているという概念ができる。

## 午後のワークショップは

4人ずつテーブルでチームを組み（私のテーブルは教諭2名・司書2名）行う。

学校図書館で調べる」6年生社会科 テーマ「長篠の戦い」

調べて、まとめて、伝えるのプロセス（配布された4冊の異なる資料を活用）

塩谷先生の手順 最初は個人で調べ、グルーピング→まとめる→即席スライド完成→プレゼン分担→グループごとにプレゼンテーションを行い、今日の学びを話し合う。

## 感想

私は小学校の司書をしていて、授業で教室に入ることはないが（読み聞かせやブックトークでは入る）低学年から「集めた情報を取捨選択して問題を解決の過程に導く」情報活用スキルを習得していくという素晴らしい授業実践を見聞きして、司書の立場から感じたこと、また、何が出来るか？考えてみた。

★ 反省 百科事典や図鑑・年鑑の使い方を指導する工夫に欠けていた。

★ 今後の課題

・自身の情報活用能力を高める。

・先生方との連携をより強く（授業に関連した必要な資料の充実）

現在、私達の市も行政の理解で司書が配置され、学校現場の協力と指導で仕事がしやすい状況にある。ますます重要になる学校図書館の役割を認識して、仕事に励みたい。最後にこの素晴らしい講座を企画してくださった関係者の皆様に御礼申し上げます。 (学校司書 K・F)

# ただいま制作中！等身大キノ！

3月19日の講演会をせっかくの機会と考えて下さった学校司書有志の皆さんが、各学校で企画や紹介を行って下さるそうです。今始まったばかりですが、幾つかをお知らせします。

富山南高校図書館では、時雨沢恵一氏の講演に向けて2月の展示コーナーは「『キノの旅』フェア」をすることになった。

『キノの旅』ファンは「等身大のキノ」を作ろう！と張り切っている。メンバーは4人、図書委員と文芸部員。右の写真には写っていないが、残りの2人はキノをボードに貼って立てる係。

7限授業後の放課後は時間がない、部室は寒い。

しかし、楽しそうだ♪♪♪ 制作中も作品から受けるそれぞれの「キノ」のイメージや色決め、フェアには作品の展示と「他に何する？」、学校の課題は…などなど話題は尽きない。



時雨沢先生には当日、ヤングセレクション賞として、キノファンから募集した寄せ書き集をお送りするつもりです。これもぞくぞくと大作が集まっています。「キノの旅」は人気が高く、息の長い作品です。小学生から大学生、社会人などの若者たちが、大好きな作品の作者に会いに大勢集まってくれることと思います。にぎやかで楽しい講演会になりそうです。



## 学校図書館に関して使用できる「住民生活に光をそそぐ交付金」が補正予算で成立しました

平成22年12月に成立した補正予算で、地域活性化交付金（「きめ細かな交付金」及び「住民生活に光をそそぐ交付金」）が盛り込まれました。12月6日に文部科学省初等中等教育局児童生徒課より都道府県教育委員会学校図書館担当課へ、都道府県での積極的な実施計画の作成と、地域内の市町村に対する周知を依頼されました。住民生活に光をそそぐ交付金（1000億円）については、地方単独事業や国庫補助事業の地方負担分に充てることができ、活用はこれまで大事な分野でありながら光が十分に当てられてこなかった分野に限定されています。児童虐待防止や自殺予防、不登校対策などと並んで、学校図書館における人材の確保、図書の実質、学校図書館施設の改築・増築などが想定項目にあげられています。

上記の情報を得た考える会は、12月15日に県内の15市町村と県の教育委員会に交付金活用計画の進行状況を問い合わせ、要望書の郵送の了承を得て、各自治体に要望書を送りました。

各自治体の状況はバラバラで、「学校図書館関係で交付金を活用したいと思っているから、すぐ要望書を送ってくれ」という市町村もある反面、「財政課が決めることですから、何も決めていません」というところもありました。けれども要望書郵送後には、教育委員会の尽力や地区委員と会員の議員の働きかけもあり、学校図書館関係に交付金を前向きに使用しようという動きが見られます。何しろ平成23年1月上旬までに国に計画書を提出しなければならないという時間の無さですから、声をあげなければ他の分野で使われてしまいます。学校図書館は声をあげてもらいにくいところですので、小さな私たちの声が伝わった自治体があったら幸いです。各自治体に提出した要望書は、それぞれ微妙に異なりますが、作成した要望の概要をお知らせします。

.....

〇〇〇〇教育委員会 殿

### 地域活性化交付金「住民生活に光をそそぐ交付金」活用に関する要望書

平素より、子どもたちの読書意欲や情報検索能力を支える学校図書館の活性化のために、格別のご配慮、ご尽力をいただきましてありがとうございます。

さて、貴町では現在、先ごろ国の補正予算に盛り込まれた地域活性化交付金「住民生活に光をそそぐ交付金」についての実施計画の作成を進めてくださっているところと存じます。

この交付金では、「学校図書館における人材の確保」「図書の実質」「学校図書館施設の改築・増築」といった、学校図書館の充実につながる施策が想定されています。また、交付金を基金として積み立て、来年度以降の地方単独事業の財源とすることも可能と聞いています。さらに10月26日の記者会見で、片山総務大臣は「今回は補正での単年度の措置だが、来年度は交付税の中で継続できる仕組みを考えていきたい」とも語っておられます。

ぜひ、この機会を逃さず、雇用も創出でき、子どもたちの未来に光がそそがれる学校図書館の充実のために、交付金を活用していただくことをお願い申し上げます。そこで、交付金を活用し、以下の4点の実現を要望いたします。

#### 記

- 1 学校司書を増員し、市内すべての小学校と中学校の学校図書館に1校専任での配置を行って下さい。
- 2 子どもが学校にいる時間は、いつでも利用できる学校図書館にするために、学校司書は常勤での勤務にして下さい。
- 3 教育の課程に寄与できる学校図書館の蔵書を作るため、計画的な図書の購入を進めてください。
- 4 利用しやすく、心落ちつく学校図書館にするため、学校図書館施設の整備を積極的に進めてください。

子どもたちの知力と心を育む学校図書館への私たちの思いを深くご理解いただきまして、お力添え下さいますようお願い申し上げます。

### 富山市行政改革推進委員会委員に応募しましたが・・・。

平成22年11月に富山市で、行革推進委員の公募があったので、「行革は全ての分野に平等に行われるべきではなく、教育と福祉分野は慎重にされるべきだ」という主旨のレポートを書き、応募しました。「そりゃダメでしょう」と思われる通り、やはり落選でした。せめて提出した思いだけでも、参考にしてもらえたらと願います。

### 射水市教育委員会をお訪ねしました。

先月号の連載「司書のいる学校図書館の風景」は、射水市の学校司書の方々に書いていただきました。そこで現場の声をお伝えしようと、考える会地区委員と一緒に射水市の教育委員会を訪ね、教育長に会報をお届けしてきました。その他、市議会議員全員にも配布しました。今後も各地域の学校司書にどんどん書いていただき、それを各自治体の多くの方々に読んでもらえるよう務めたいと考えています。

### 出版ニュースに掲載されました。

毎月3回発行されている出版総合誌「出版ニュース」の5月上旬号に、全国学校図書館協議会顧問の笠原良郎氏が「学校司書配置を求める地域からの運動の構築を」という内容の記事を寄稿されました。これに呼応する市民の声をということで、考える会事務局の江藤が今までの活動の経緯と思いを綴った原稿を書き、8月上旬号に掲載されました。これを良い機会として捉え、記事を持って富山県学校図書館協議会の事務局をお訪ねし、県内小中学校司書への支援をお願いしてきました。

### 申し訳ありません。

No.46で掲載した滋賀県公共図書館見学の記事で、「高月図書館」を「高槻図書館」とご紹介してしまいました。せっかく好意的に見学を認めてくださった高月図書館には、申し訳ないことです。皆様にお詫び申し上げます。

### やっとHPを開設しました。

17年間の活動記録をホームページ上で見ていただくことができるようになりました。会報バックナンバーや主催学習会記録などは、時を経ていてもなかなか読み応えのある内容です。ぜひ、アクセスしてみてくださいね。 <http://www4.plala.or.jp/ptosyo/>